

刊夕e一卅月五

常磐每日新聞

第一版全紙 月金五拾圓 郵費五圓
 發行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式會社

二なき本願力

真繼 雲山

釋尊が菩提樹下に悟りを開かれたといふその内容は三千年後の私たち凡人には容易に窺ひ知ることの出来ぬ神祕であるが、姑らく現代に遺されてある文献をたどりて稽ふるに約していへば、それは四諦、十二因縁、八正道といふに歸着する。諦とは諦觀と續く字で實相を誤りなく觀照するに名づける。四諦とは苦集滅道の四聖諦をいふ。

即ち何ゆゑ死ぬるかといへば生れたからである。なせば生れたかといへば迷ひ即ち無明が原因してあるからである。なせば迷ひ出たかといふに前世の業を引いてゐるからであるといふ圓周の關係をいまわり説明したので十二因縁觀である。

さうした生死輪廻を永久に繰り返してゐても苦しむだけであるからやめたがよいといふのが悟りの教へであつて、輪廻をやめることを解脱といふその解脱を消極的に考へ灰身滅智して不生に到れと教へたものが小乗教であり、自我をはなれて積極的に世のために奉仕せよと教へたものが大乘教である。小乗教の灰身滅智だけでは味も蓋もない冷やかに觀察すればそれは生存の否定であり同時に人生の否定であつて、ます／＼味のなき話となる。矢張りそれを捨て、積極的に地上の鹽となり人生の花となつて現世を淨化し、忍土をそのまゝ樂園とすべく力むところこそが人生の意義でありそれが大乘の悟道の體現である。釋尊が後に自ら如來なりといはれたが、御眞意も恐らくはそこにあつたであらう。

はる／＼途中商人婆娑迦に會ひて申されたことは『我れは一切の勝者なり』といふのであつた。勝つたといふのは惡魔に勝つたといふことである。

こゝで惡魔とは凡夫の煩惱妄想を意味し、その煩惱を完全に切り切られたことである。成るほど煩惱がなくなれば聖者であるに相違ない。

第二鹿野苑にいたり阿若憍陳如以下の五群比丘を濟度せらるゝに當りて申されたことは『我れは一切智を得たり』といふことであつた。生れたからには死ぬのが當り前、爺婆になつても死ぬことが出來ぬとなつたら第一當人が困るのであるが、それでも死にとむなしいといふのは智慧が足りなからである、一切智を得てみれば迷ふことも困ることもない筈である。

第三に故國迦毘羅衛城に歸り父王に告げて申されたことは『我れは如來者なり』といふことであつた。如來とは眞理を體現し眞理の如く來現するの字義を有するそれは決して人生の退陣ではなく、生々世々に亘りて一切を救はんといふの如來者である。如來はその本願力によつて世を救ひ、われ／＼はその本願力によつて

救はれつゝある。如來と衆生とは迷悟千萬里をへたつるにせよ、仲を結ぶ本願力といふに二なきと知らねば

ならぬ。釋尊の悟り本願力と固よりして一如である。

完

外科

専門線 X
 科線光
 旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 板ガラス
 硝子 壺
 硝子 食器
 其他各種
 旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 板ガラス
 硝子 壺
 硝子 食器
 其他各種

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 板ガラス
 硝子 壺
 硝子 食器
 其他各種

松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

久全屋酒店

磐城セメント會社特約店
 磐城平町五丁目 電話九番九九番
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷は 〆の生命なり

至新川町十九
 産婦人科 木村病院
 電話一六四番
 院長 木村寅次郎
 婦人科 醫學士 内木宗八
 産婦人科 醫學士 内木宗八
 整形外科 醫學士 内木宗八
 器泌尿科

小兒科。内科
 特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。
 平町 ねずみ坂
 隨意 渡邊醫院
 電話一六一番

是非御利用を
 營業時間午後九時迄
 平町四丁目河岸通り
 三井質店
 電話六〇六番

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番



高久病院
 院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 平町田町 電話五一三番
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町會議員當選者

一七四	野崎 滿藏	(五三)	自動車業	民再
一六七	川崎 文治	(三九)	新聞記者	政新
一六四	關内 正一	(三七)	商業	政再
一五六	井上 茂作	(六七)	會社員	政再
一四九	猪狩 觀德	(四六)	鐵道員	政新
一四六	小野伊佐治	(七〇)	質屋	政元
一四七	佐藤幸太郎	(三六)	米穀商	民新
一四二	高橋 龜松	(五四)	商業	政再
一三九	酒井 清	(四一)	旅館業	政新
一三六	坂本 隆藏	(五四)	商業	政再
一三四	根本 品藏	(四八)	米穀商	政再
一三六	松崎 長太郎	(五二)	商業	政新
一二九	多田井笑次郎	(三六)	質屋	政新
一二〇	馬目 武之助	(四七)	染物業	政再
一一九	馬目 雅治	(三八)	新聞記者	民再
一一四	吉田 金作	(五一)	無職	政新
一一一	吉村 安治郎	(四六)	綿業	民再
一一〇	吉田 寅之輔	(四六)	上繪業	民再
一〇九	堀 喜一	(四五)	書店	政新
一〇八	佐々木 龍若	(五三)	商業	政再
一〇八	萩原 義雄	(四六)	齒科醫	民再
一〇三	石山 治三郎	(五四)	建具商	政再
九八	花澤 久一郎	(五五)	米穀商	政元
九八	荒川 淺次郎	(五〇)	家具商	民再
九七	鈴木 光吉	(六一)	雜貨商	政再
九七	會川 延太郎	(五三)	醬油屋	政新
九一	新井 滋藏	(五一)	農業	民新
七六	吉田 五平	(五六)	無職	民再
七六	綠川 喜三郎	(四三)	鋸製造業	民再
七五	小 松茂	(三六)	酒商	民新
次点				
七二	櫻 井清			中前
六六	齊藤 寅吉			政新
五〇	大和田與兵衛			中前
四一	齊藤 角治			民新
三九	永山 富廣			中前
三七	佐藤 岩次郎			民前
六	丸山 藏			中前

清潔整頓及び 作業訓練の徹底

第二校六月の行事

平第二小學校にては來月環境整理の刷新完備と清潔整頓及び作業訓練の徹底を期する事になつたが一月間の行事は左の如くである

- (一日) 尋六修學旅行出發
- 五時二十分 學校自治會
- 保費集金 學用品請求
- (二日) 同歸校六時五十分
- 同學年會(三日) 郡女教員
- 會學年會誌教案提出 同
- (四日) 鰮齒豫防日 母の
- 日(五日) 市町村義務教育
- 費負擔法による報告 貯
- 金日(六日) 石城郡教務主
- 任會(七日) 縣下校長會
- (八日) 同統計主任會(九
- 日) 縣教育會學年會(一
- 〇日) 同時の記念日 保
- 費集金 學年會誌教案提
- 出(一二日) 職員會(一三
- 日) 市町村立小學校教員
- 俸給調報告(四日) 公開教
- 授 父兄懇話會通知 授
- 業料徵集日(一五日) 公開
- 教授 實業科目に關する
- 調査報告 同貯金日(一
- 六日) 學年會(一七日) 父
- 兄懇話會 神宮月次祭
- (國旗掲揚式) 學年會誌教
- 案提出(一九日) 尋五以上
- 選手競技練習(二〇日) 保
- 費集金日(二一日) 同學校
- 自治會(二二日) 基本金取
- 扱(二三) 學年會(二四
- 日) 學年會誌教案提出
- (二五日) 職業指導日(二
- 八日) 三校聯合會(二九

郡下町村當選者

石城郡四倉町の町議選舉は昨日執行されたが當選者は左の如くである

八七	吉田 三郎
八〇	鈴木 建二
七三	長谷川長太郎
六六	金成 岩吉
六五	大和田安太郎
六三	古河定兵衛
六一	面川龜之助
五九	長谷川西次郎
五八	菅波幸太郎
五六	豊田 義孝
五五	青木 公丸
五二	鈴木幸次郎
四八	菅波 末吉
四六	須藤久太郎
四五	小湊 宗吉
四四	植田萬次郎
四三	吉田彌十郎
四〇	長谷川寅次郎
次点	
	小湊平次郎
	栗原欣二郎
	豊田 耕作
	横田才次郎
	佐藤 熊藏
	横田 民彌
	中野 捨與
	(渡邊村)若松徳太郎 大
	平彌一郎 高木寅藏 澤
	田正海 大平喜代志 山
	本鶴吉 大平己之 次山
	本政之助 國井邦房 永
	山真司 小野定勝 石川

昇 (錦村) 金成源右衛門 高 橋秀雄 山野邊龜太郎 齊藤亥之次郎 星友太郎 庄司美雄 鷺三郎 金成 金濱次 島清躬 正木次 郎兵衛 大平菊次郎 赤 津龜太郎 (神谷) 志賀龜作 鈴木庄 之助 中山喜代太 鈴木 秀吉 佐藤新次郎 佐藤 野次 中野辰之助 鈴木 與右衛門 鈴木善壽 木 村幸雄 柳原多章 赤津 件五郎

市内各校打合せ 平町三校打合せ會は昨日午 前九時より第一小學校に於 て行つたが協議事項は左の 如くである 一、六月十、十一の兩日 福島市に於て開かれる縣教 育會の出席に關する件 一、六月十四、十五の兩日 行れる公開教授の件 一、同學年研究會に關する 件

合の漁場は非常な活氣を見 るであらうと 郡下女教員 總集會々催 石城郡下各小學校女教員總 集會は來る六月三日午前十 時より平第二小學校講堂に 於て開かれるが當日意見發 表をなす會員は左の如くで ある 一、私の見た子供の生活 勿來芳賀ミネ 一、私が級を通じて綴方 教育の一考案 草野松 ツネ 一、題未定 平第二仲村 操

餌付は一般に 不良の模様

磐城丸鰮漁場調査報告

石城郡小名濱町縣立水産試 験場指導船磐城丸は去る廿 日漁場調査の爲め小名濱を 出港廿八日午後四時歸港し た報告に依ると第一漁場は 野島崎東四分百八十二哩の 地点で五百隻の鰮二千五百 十尾を釣獲、第二漁場は同 く東微南百八十四哩附近で 二百尾、第三場は同く東南

東三百七哩沖合で百七十尾 第四場は同く三百三十二哩 の地点で三千尾の漁獲をな して歸港したものであるが 一般に餌付稍不良で群集少 なく北上するにつれて大群 となり餌付も良くなるであ らうと尙同航海にはトンボ 及び鰮の群集をも発見した ので來月半頃より小名濱沖

愛讀者諸君へ熱謝

清き貴き得票百六十七!

高點當選を感謝します

目下混雜中に付いづれ參上御禮申し上ます

常磐毎日新聞社長

川崎 文治

平町議戦愈々閉幕

裁断された卅七戦士

場外の一隅から起る萬歳の嵐

三十七戦士が月餘に亘つて血みどろな戦ひを演じて来た平町議戦も三十日夜半に於て一切を清算された

この日投票場入場券を配布された四千七十名の有権者は朝まだきから詰めかけて投票を争ひ午後七時の締切り迄に三千九百五十九名の投票を終り、棄権は百十一票と言ふ驚異的数字を示して午後八時より立會人其他運動員關係者等開票場に入場した百餘名の參觀人は頗る緊張裡に玉手箱の蓋は開けられた十餘名の役場議員、開票立會人の手によつて數を決定され更に候補者別に或は高く或は低く票は積み重ねられた、其の頃よりして場の内外に陣取つた各候補の傳令係りは弓張、懷中電燈等をもつて其の空氣をリレー的に事務所へと傳へられ其の間全く目まぐるしい情景が展開された、午後十時頃に至つて大体當落は判明し場外の一隅からゴールに入つた戦士側から萬歳々の爆聲が起る、勇者を取巻く連中の歡喜のクライマックスに達した眞の

現れてはあゝ。同十一時半に至り点字投票から疑問投票迄一切の整理を終つて青

新人健闘し 老将敗る

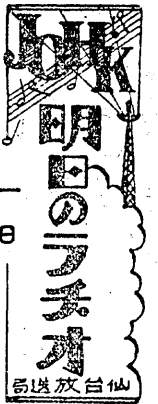
意外の番狂はせ續出

健闘空しく敗れた人、途中に於ける障害物を見事に越へ目出度ゴールに入つた人々の戦ひの後を見ると全く大きな番狂はせがないでもない

相當に 苦戦と見られ

てゐた多田井佐藤幸兩新人が意外の高点によつて當選した事は若人として若人の意氣ある後援を受けた結果と見られそれだけ今後の選挙は若人の後援による賜まものが最後に於て大きな何ものかをもたらし事になり又其の反面に於て老年組はあなどり難い

戦ひを演ずる結果が



明日のラジオ
今夜は北西の風晴
明日は北東の風晴
雲半す

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 「唱歌」酒田市内各小學校
- 児童
- 後七、三〇 浪花節
- 「栗田口の仇討」妻川歌燕
- 後八、〇五 萩江節

明日の部

- 「八島」萩江壽々子其他
- 後八、二〇 ラヂオ風景
- 「趣味ろく」新緑漫景
- 柳永二郎其他
- 後九、三〇 時報、ニュース
- 氣象通報、番組豫告

折紙をつけたげに

呆然とした敗選の原因は運動不足と、これ又地盤蠶食によるもので全くお氣の毒に堪へない、其の他に於ても豫期に反した高低はあるが然し少壯組がよく活躍し相當の票を得た事は

將來の選挙に對して

良いお手本となつた譯である (坂本生)

豫備上等

石城郡泉村字八木谷居住進弟豫備伍長勤務上等兵佐藤惣七(三)は去る廿九日午後

悲戀の自殺

其の後除隊歸郷中も再三テルの両親に結婚を申込んだが極力反對されたので惣七は本月廿日仙臺に出掛けテ

偽自動車運轉手

鮮魚屋を荒し廻る

修繕費用を巧みに騙取

埼玉縣児玉郡本庄町字宮本生れ當時住所不定梅澤義雄(三七)は群馬縣伊勢崎町丸共鮮魚運送店方雇運轉手と稱し茨城縣多賀郡大津町西町鮮魚商山形重兵衛方に至り

へトへの

リンペン君

悲鳴を擧げて役場へ今廿一日午前十一時頃町役場へ一名のリンペンが一食のパンを與へて呉れと願出たので係員が事情を聞くと同人新潟市海岸通り三ノ二生れ福村時藏(三)で三年前樺太に渡り大泊港で沖人夫を働いて居た際材木で右腕を折り解雇されたが貯へてないの郷里へも歸れず石城地方の炭礦に居る友人を頼つて昨日日吞まらず喰はすで富岡より歩いて来たものであると

身代金横領の

悪漢へ一年求刑

宮城縣伊貝郡角田村生れ目下住居不定前科二犯太田木(四)が昨年七月頃石城郡湯本町大字榮田八十一番地高久田榮太郎より同郡内郷村

堀田氏の

個人洋書展開催

帝展洋書壇の中堅作家として知られた堀田清治氏は帝展出品製作の爲め豫てより平町に滞在中であつたが明一、二の兩日田町サロソ内にて近作の個人洋書展覧會を開催すると

- 前六、三〇 基礎ドイツ語講座(二二)テキスト橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立
- 前一〇、三〇 婦人講座
- 「若き女性に」興野昌子
- 後〇、〇五 流行歌と和洋合奏 獨唱 丸山和歌子
- 日活オーケストラ指揮田中豊明
- 後二、〇〇 婦人講座
- 「婦人と保険」法學博士栗津清亮
- 後二、二〇 野球試合實況
- 五大學リーグ戦 中大對
- 日大明治神宮外苑球場より中繼
- 後六、〇〇 子供の時間
- 童話劇「アンドロクレスと獅子」BKコードモサークル
- 後六、二五 英語講座(三ノ四)テキスト 石川林四郎
- 後七、三〇 國際經濟會議特別講座(一)総論商工大臣 中島久吉
- 後八、〇〇 合唱レジュネー
- 「ライラックタイム」寶塚少女歌劇團聲樂専科花組生徒

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
上田馬之助

第三百五十一號

引渡罷りならぬ
上田馬之助の爲めに重傷を負うた前田敬之助は梯子の中段から轉げ落ちたが強膽者として苦痛をこらへ邸まで駕籠を雇ひくれば云ひました。それに居た若い者は驚いて

若「旦那確りなさいました大した傷ではございせん」と云ひながらガタ／＼慄へてゐる上田馬之助は血にそみし一刀をひつさけておもむろに梯子をおり

馬「何うだ前田とやら俺の腕を見たか、又刀の斬れ味を知り居つたか、さて、命を租末にする奴だ、今日の決闘は貴様の方から買ひ込んだことだぞ、俺を恨むな」

前「邸まで駕を頼む」
そこで上田から申し付けて駕を雇つたが馬之助は刀を洗つて血を落し、拭を掛けて鞆に納め前田勘之助の手を取つて

馬「駕が参つた、早く邸に戻つて手當を加へろ、命運盡きずば助かるであらう、それ駕に乗れ」
と引き立てる、前田はヒョロ／＼立ち上り倒れんとしたを踏み止まり刀を

駕に入る、此の駕は醫者や僧侶の乗る戸のある駕ですから乗り移るとビタリと戸を閉めた、此時前田はウ／＼と呻きましたが、バタツと前へ倒れて絶命致した、駕屋も驚いたが據らなく丸



の内の織田伊勢守侯上邸まで持ち込みましたまた、松田にて上田の爲に殺された二人の死体は伊勢守の家來が引取る、上田は十兩金を出して松田の主人に與く之にてあとを清めてくれと申し、他に五兩出してこれは奉公人共の贍濟し料だと云

つて與へそして松田からかごを雇はせそれに打乗つて本所中ノ郷の細川能登守の邸に戻り、緒方新三郎に此の始末を話したがこれを聞いて新三郎は吃驚して

かう云ひました、それですから上田には何の咎めもない。すると織田伊勢守家來黒川靱負と云ふ者が参つて目附の緒方善右衛門に面會して

新三郎の養父善右衛門は目附ですから此の事は聞きすてにすることは出来ない、早速殿様に申し上げた、能登守侯これを聞いて

善「イヤ上田から承はつたには織田殿御家來が酷罰いたして無禮いたしたとのこと、しかし相手はよほどれのこと、風に柳とあしらうて居つたが、果は斬つてかゝりし故據らなく決闘を致したとのこと、さすれば上田をお引き渡し申すことはなりません、此上さびしきお掛合を申入れしとて應ずることはなりません、此段宜敷殿様に御披露くださ

久「織田伊勢守より斯様申し出でたが此事を公然にいたすと洵に面倒である依つて上田馬之助儀は能登守の家法に照して相當なる處分を致して宜しからう、さすれば穩かにすむ」
悠「言ひましたは腹を切らせろとの謎です。」

内科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

鹽にか 焼にか



最優最良 最大最盛 本生本盛 命盛 平代 代理 店榮
(三一二電)目丁四平

男女安全豫防藥
新發賣 **志のぶ錠**
しのお錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇の外コシケ、子宮、内膜炎、膿加答兒並に婦人〇部の癢痒等の治療の目的に用ひられる事で即ち〇〇〇の豫防と治療の二重奏をなします
專賣所 **阿康藥舖**
平古鍛冶町(電話四四番)
妊娠を望む方は使用すべからず

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
申込次第(規則書進呈)

外花柳病科専門
木村外科醫院
自炊入院の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電